

豆 狸 の 寝 言

副会長 三原幸二

最近は自分で車を運転することが少なくなった。たまに運転をする
と感覚を取り戻すのに時間がかかるし、無謀自転車の餌食になっても
困るので、タクシーを利用することが多くなった。

タクシーの運転手さんもいろいろで、ぶっきらぼうで木で鼻をくっ
たような返事しか返ってこない人もたまにはいるが、だいたいは話好
きな人が多いようだ。景気の話、政治の話、野球の話、相撲の話、食
べ物の話、飲み屋の話などなど、話題も豊富で、奥の深い話が聞ける
こともある。

先日、雨に降られて、あわてて乗ったタクシーの運転手さんからこ
んな話を聞いた。

十歳くらいの男の子を連れて乗り込んできた母親らしい女性が、車
に乗るやいなや「この馬鹿たれが、なに考えてんじゃ」と言うが早いか、
げんこつで男の子の頭や顔を殴りつけ、聞くにたえない罵詈雑言ばりそうごんをあ
びせていたという。

事情がわからない運転手さんは、目のまえの突然の出来事に止める
勇気もどこかへ吹っ飛び、「お母ちゃん、かんにん、お母ちゃん、か
んにん」という子供の声が耳にこびりついて、なんともいたたまれない
気持ちになったそうです。

子供を殴るだけ殴ったその女は「運ちゃん、タバコを買うからコン
ビニで止めて」と言ってタクシーを降りた。

しばらくして、女は手にタバコとソフトクリームを持って帰ってきた。



運転手さんはてっきり、叱りすぎた男の子にやるんだなと思っていたら、女は泣きじゃくるわが子をちらっと見ただけで、ソフトクリームをペロツとたいらげてしまい、タバコをすっていたという。

その光景を見て、「ぞっとしましたよ」と運転手さんは言った。

いま、親が子を殺したり、子が親を殺したり、持って行き場のないやりきれなさ^{いきどお}と憤りを感じるのが、あまりにも多いように思う。

人の幸せは何によって定まるのかは人さまざまだと思うが、おそらく日々安らぐことがないであろう少年が、不憫でならない。

こんなふうにして育った子供は、親から受けた以上に子供を虐待する親になっていくことが多いそうだが、この少年には、自分の子供にだけはあの苦痛を味わわせたくない考える親になってほしいと、願わずにはいられない。

(やりきれない話) 2010 年執筆

会報誌 **NewWave** へご寄稿のお願い

「New Wave」誌は、皆さまに身近な会報誌としてご愛読していただくことを目指しています。その第一歩として、読者の皆さまからのご寄稿を数多く掲載することを計画しています。一人で心の中にしまっておくには勿体ないような面白い話や為になる話。それに、地元のグルメ情報などジャンルは問いません。

ご寄稿は、メール・アドレス「zennichi@jeda.or.jp」へ、件名「寄稿」と記入の上、送信して下さいますようお願い致します。800～1000文字程度にまとめた文章に写真2～3点を添えていただければ幸いです。

各単組の組合員企業ならびに賛助会員企業の皆さまよりのお便りをお待ちしております。

全日本電設資材卸業協同組合連合会・広報委員会